

新しい 須賀小学校 地域拠点施設を みんなで考える

問 教育総務担当 34・1111内線425

2階
17番



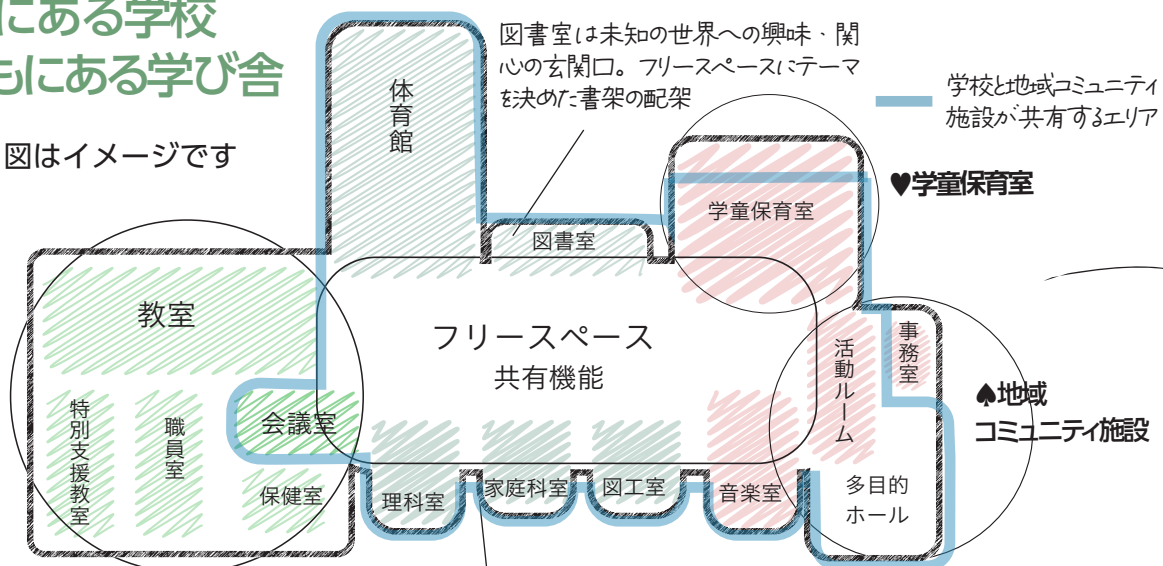
ワークショップやヒアリングなどで出されたアイデアをもとに建物のイメージ模型を作り、皆さんからさらなる意見をいただきました。



▲基本計画はHPから

まちの中にある学校 地域とともにある学び舎

図はイメージです



●小学校占有ゾーン

プライバシー性の高い教室や管理ゾーンはセキュリティラインを明確に

音楽室や理科室などの特別教室とフリースペース（共有機能）を隣接させ、地域と学校との交流が生まれやすく、使い方の多様性にも対応できる空間づくり

地域みんなも使える部屋とは？

地域ワークショップの第3回では「新しい施設での活動」の可能性を具体的な「場」や「空間」に落とし込んでいくために、9つのテーマ（図書・音楽・図工・家庭科・保健・校庭・学童・多目的ホール・フリースペース）を設定して話し合いました。少しずつ学校と地域が歩み寄り、共有できそうな場所について考えていきました。

基本計画策定過程(令和5年)

- 住民ヒアリング（8月～9月）
- 公開シンポジウム(9月)
- 地域ワークショップ全3回（10月～12月）
- 議員ワークショップ（10月）
- 教職員ワークショップ全3回(11月～1月)
- 公民館利用団体ヒアリング（12月）
- 学童保育所ヒアリング（12月）



対話をくりかえしながら

全3回の地域ワークショップは「どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議」と題して開催しました。

戦後、須賀小学校の児童と地域の皆さんが、どんぐりを集めてピアノを購入したという出来事にちなんでいます(3月号広報)。

一つひとつのアイデアや意見は小さくても、それが集まり、形になれば、地域にとって、かけがえのない宝物になります。こうした考えのもと、今回の施設づくりにあたっては、基本構想づくり(令和4年度)、今回の基本計画づくり、ともに町民の皆さんによるワークショップを開催しています。

宮代町長 新井康之



公開シンポジウム、ワークショップともに、毎回、決めたテーマにそって参加者は話し合いを行いました。



ワークショップ・ヒアリングの意見から抽出した各施設のイメージ

♣須賀小学校

- 〇子どもにとって安全で学びが深まる環境、教えてもらえる環境
- 〇安全にも配慮しつつ、子どもがのびのび生活できる
- 〇地域施設と部屋を共有しつつ、子どもと教職員のプライバシーも守られるように
- 〇地域のボランティアの人に助けってもらえる

♠地域コミュニティ施設

- 〇外から活動が見えるようなオープンな場所
- 〇活動のあとに休憩したり、少しおしゃべりしたりできるスペース
- 〇高齢者が利用しやすい1階に貸室がある
- 〇多目的ホールと外が繋がっていてイベントで使いやすい

♥学童保育

- 〇子どもの活動内容にあわせて、保育室を間仕切りで部屋の大きさを変えられる
- 〇早い時間から学童を利用する低学年が音を気にせず過ごすことができる
- 〇日中は地域の方に部屋を使ってもらう
- 〇送迎時に保護者が子どもを待つスペース

共有機能

- 〇須賀・和戸エリアで身近に本を読める場所
- 〇性別に関係なく料理ができる場所
- 〇干し柿を干したり、寝転んで空を眺めたりできるようなテラスや芝生広場
- 〇カフェがあったり、キッチンカーが来たりして、気軽に飲食できる場所
- 〇富士山が見える窓やテラス
- 〇子どもも大人も使いやすく、天気を気にせず使えるような半屋外空間
- 〇学童に通っていない子どもも放課後に利用できるスペース

それぞれの想いを形に



川面さん一家 愛犬のなぎちゃんと

地域の人みんなで話し合う楽しさ

川面さんは家族でワークショップに参加しました。きっかけは近所に住む同年代の友人に誘われたことです。「気がつくとも毎回参加していました」とご主人。初めて会う方ともうちとけて、新しくなる学校や地域のことを話せたのが良かったと語ります。「話が脱線しても、結局どれも地域づくりやコミュニティの拠点施設に戻ってくる、不思議ですね」と奥さん。当時小6だった息子さんも、大人たちと意見を交わす貴重な体験ができたとのこと。ワークショップでつながった皆さんとは、一緒にモルックを楽しんだり、イベントに参加したりと、今も交流が続いているそうです。



荒木さん(写真中央)

活動のひろがる場になれば

荒木さんは令和4年、町が無作為に選んだ町民に案内した基本構想づくりのワークショップに参加しました。6年前、宮代町に転入した荒木さん、「たとえ町長であっても参加者が対等に話し合えることはとても新鮮」だと感じたそうです。それがきっかけで、今回のワークショップも全て参加しました。建物ができれば地域のコミュニティや交流の中心となると思うので、町の社会福祉協議会や進修館だけでなく、新しくできるこの場所でも同様なことができるだろうし、自分自身にもできることがあるのではないか、と夢を語ってくれました。